

令和8年 2月28日

大阪府教育委員会
教育長 水野 達朗 様

少年自然の家共同事業体
代表者
大阪市東淀川区東中島1丁目20番14号
公益財団法人 大阪ユースホステル協会
会長 平 岡 龍 人

令和8年度大阪府立少年自然の家の事業計画書等の提出について

大阪府立少年自然の家指定管理者募集要項に基づき下記のとおり提出します。

記

- | | |
|------------|------------------|
| 1. 事業計画書 | 別紙1「事業計画書」のとおり |
| 2. 収支計画書 | 別紙2「収支計画書」のとおり |
| 3. 管理体制計画書 | 別紙3「管理体制計画書」のとおり |

1. 事業計画

1. 事業運営方針（年間管理運営目標）

新たな指定管理期間の初年度として、関係法令の遵守、安全・安心な施設運営を基盤に、社会教育施設としての機能充実と利用者サービスの向上を図る。あわせて、広報、外部連携、事業検証等の仕組みを整備し、今後 10 年間の継続的な発展につながる管理運営基盤の構築に取り組む。

① 関係法令を遵守し、安定的かつ適正な管理運営を行う

指定管理施設として求められる公共性を踏まえ、関係法令、関係規程等を遵守し、適正かつ安定的な施設運営を行う。個人情報保護、情報管理、労働管理等については、関係規程に基づき適切に対応するとともに、職員一人ひとりのコンプライアンス意識および情報リテラシーの向上を図る。また、安全管理を徹底し、安定的な施設運営の前提となる適切な労務管理および組織運営体制の強化に取り組む。

主な取組

- ・関連法令、関係規程等に基づく適切な施設運営
- ・個人情報保護、情報セキュリティ、情報管理に関する職員意識の向上
- ・安全管理体制の徹底と、安定運営に向けた適正な労務管理の実施
- ・新たな指定管理期間における運営基盤の整理と内部体制の定着

② 利用者にとって安心・安全で快適な施設環境の提供を推進する

利用者が安心して施設を利用し、活動できる環境づくりを進めるため、施設の安全性・快適性の向上を図る。日常点検や計画的な修繕・改修を通じて施設機能の維持向上に努めるとともに、食堂においては HACCP に沿った衛生管理を徹底し、安全で温かみのある食事提供を行う。また、多様な利用者ニーズに対応し、宿泊や団体活動に不安を抱える利用者に対しても柔軟に対応できる環境整備を進める。加えて、食堂運営においては、スチームコンベクションオーブンを導入し、大量調理における作業効率の向上、調理品質の安定化、エネルギー使用量の削減を図る。これにより、利用者サービスの向上と環境負荷低減の両立をめざす。

主な取組

- ・施設の安全性、快適性を高めるための修繕・改修の実施
- ・食堂における HACCP に沿った衛生管理の徹底
- ・温かい食事の提供と、食品ロス削減を意識した運営の推進
- ・スチームコンベクションオーブン導入による大量調理の効率化および省エネルギー化
- ・宿泊や団体活動に不安を抱える利用者への柔軟な対応
- ・スペシャルニーズを有する利用者にも配慮した安心できる利用環境の整備

③ 施設の特性を生かし、社会教育施設としての学習機会と体験活動の充実を図る

自然体験、宿泊体験、集団活動等を通じて、社会教育施設としての役割を果たす事業を展開する。学校教育との接続や社会的要請を踏まえ、防災、環境、探究的な学び、持続可能な社会づくりに資するプログラムの提供に取り組むとともに、学校、家庭、地域、企業など多様な主体のニーズに応じた事業展開を進める。これまで提供してきた防災教育プログラムや森林 ESD プログラム等に加え、近年の教育課題の多様化を踏まえ、専門機関と連携しながら、不登校等の課題を抱える児童・生徒を対象とした「新たな教育課題への対応」事業を試行的に実施する。本事業では、安心できる環境の中で自然体験活動に取り組むことで、成功体験や他者との関わりを通じた社会性の育成、自己肯定感の向上を図るとともに、学校や家庭とは異なる体験機会を提供する。初年度は実施を通じてニーズや効果を検証し、次年度以降の事業展開につなげる。

主な取組

- ・学習指導要領を踏まえた体験活動の提供
- ・「防災教育プログラム」の提供
- ・環境学習や持続可能な社会づくりに資する「森林 ESD プログラム」の提供
- ・大阪府の体験活動推進に資する「出前講座」メニューの充実および学校等への実施
- ・専門機関と連携した、不登校等の課題を抱える児童を対象とする自然体験事業の試行的実施
- ・学校、青少年団体、家族、企業など多様な利用者層に応じたプログラム開発
- ・企業研修の場としての利用促進やワーケーション利用への対応
- ・SDGs の視点を各種イベントや体験活動に反映し、社会課題への気づきを促す取組の推進
- ・閑散期対策を含めた年間を通じた利用促進策の実施
- ・利用者ニーズの把握と事業内容の継続的な見直し・改善

④ 広報、情報発信、SEO 対策等を通じた利用促進に取り組む

利用者にとって分かりやすく、施設の魅力が伝わる広報を推進する。ホームページ、SNS、動画コンテンツ、WEB 広告等を活用し、施設の認知拡大と利用促進を図るとともに、利用検討時の不安軽減や、下見・打ち合わせの効率化にもつなげる。また、新たな指定管理期間を見据え、効果的な広報手法の検証と改善を継続的に行う。

主な取組

- ・ホームページの改善・充実による分かりやすい情報提供
- ・SNS を活用した広報の充実とフォロワー拡大
- ・有料 WEB 広告や SEO 対策等を活用したマーケティング強化
- ・動画共有サービスを活用した施設案内および事業紹介
- ・下見、打ち合わせ等のオンライン化・簡略化の推進
- ・CANVA 等の DX ツールを活用した訴求力の高い広報制作
- ・広報効果の検証を通じた発信内容・手法の見直し

⑤ 企業との協働および近隣施設・関係団体との連携により、施設価値の向上を図る

企業、近隣施設、関係団体、地域資源との連携を深め、施設単独では生み出しにくい価値を創出する。協働事業や協賛、地域資源の活用、外部ノウハウの導入を通じて、利用者満足度の向上と事業の質の向上を図る。あわせて、次年度以降の継続的な発展を見据え、持続的な連携基盤の構築に取り組む。

主な取組

- ・イベント等における企業との協働・協賛の推進
- ・利用者満足度向上につながる外部連携事業の実施
- ・近隣施設や関係団体とのネットワーク強化
- ・他施設や外部団体の優れた実践・ノウハウの導入
- ・地域資源を活用した魅力ある体験活動の展開
- ・次年度以降につながる継続的な協働関係の構築

事業内容

府「主催事業」の実施

①新たな教育課題への対応

●課題を抱える青少年への支援事業

専門機関と連携し、自然体験活動を通じて安心できる環境の中で挑戦と成功体験を得る機会を創出する。

事業名	実施期間	募集対象	実施内容
課題を抱える青少年への支援事業（仮称）	9/27	不登校などの課題を抱える児童・生徒 10名	川遊び・森の探検・野外炊飯・ツリーイング（ロープを使った木登り）・クラフトなど

②長期宿泊体験

●長期宿泊自然体験推進事業「こどもワイルドキャンプ」

自然体験活動を通して、自主性を養い仲間作りやコミュニケーション能力を高め、「生きる力」（知・徳・体のバランスのとれた力）を育む野外宿泊体験活動を行う。

事業名	実施期間	募集対象	実施内容
長期宿泊自然体験活動 こどもワイルドキャンプ	8/12-16 4泊5日	小学4-6年生 24名	仲間作りゲーム、秘密基地づくり、野外炊飯、キャンプファイヤー、登山など自然体験活動。

●「中高生チャレンジキャンプ」

中学生～高校生を対象に、自らの意思で考え、仲間との団結、野外生活や自然の中で生き抜く知恵などを育む。

事業名	実施期間	募集対象	実施内容
中高生チャレンジキャンプ	8/7-10 3泊4日	中学生～高校生 10名	小集団での自然冒険活動。シェルター作り、野外泊、野外料理、課題解決ゲームなど。

③読書活動と結びつけた自然体験の推進

●自然と絵本のコラボレーション事業「絵本でいただきます」

子どもたちに五感を意識して使う機会を与え、絵本の世界を実際に体験してみることで興味と想像力を養う。子育て中の親同士が活動を通して、新たな情報交換を形成する機会を提供する。

（バーベキューガーデンイベントとして実施）

事業名	実施期間	募集対象	実施内容
絵本でいただきます	5/16-17	幼稚園年中～小学生を含む親子 10組30名程度	地域図書館の協力により絵本を閲覧展示（森の図書館）。読み聞かせの後、絵本に登場する料理をつくる。

●自然の中で読書活動推進事業「えほんのひろば」

恵まれた自然の中で絵本にふれあうことで、子どもの感性を豊かにし、想像力や表現力を育てる。

事業名	実施期間	募集対象	実施内容
えほんのひろば	2/23 (オープンデーと併催)	子どもを含む家族 100名程度	自然の中で絵本を楽しむ場を設ける。地域図書館と連携しながら効果的な活動を推進。

④食育、環境学習など「持続可能な開発目標（SDGs）」を取り入れた体験的な学び

●自然環境学習推進事業 「ホタルの夕べ」

ホタルの観察を通して、自然環境や自然に生きる動植物の生態、里山の環境保全、水の大切さに興味を持たせる。(SDGs No. 15「陸の豊かさを守ろう」)。

事業名	実施期間	募集対象	実施内容
ホタルの夕べ	①5/30-31 ②6/6-7 計2回	家族・一般 各10組30名程度	里山環境とホタルの生態について解説。施設周辺でホタル観察。田んぼの生きもの、カエルの鳴き声など観察。

施設の設置目的に応じた「自主事業」の実施

●障がいを抱える青少年への支援事業

知的障がいのある子どもとその保護者・家族を対象に、臨床動作法の実習と乗馬を行う。馬とのふれあい体験を通して、家族の絆を深める。また参加家族同士の新たな情報・交流のネットワークを作る。

事業名	実施期間	募集対象	実施内容
乗馬体験と臨床動作法	10/25	知的障がいのある小学生と家族 10家族30名	専門機関と連携した「遊び体験」と「臨床動作法」の講習・実習。近隣の乗馬センターを活用した、乗馬・餌やり体験など。

●「フォレストジュニアクラブ(森の学校)」

肉体的、精神的に発達が著しい時期に、自然とふれあい、自然がもたらす恵みと感動や発見を体感する。季節に応じて年4回実施。

事業名	実施期間	募集対象	実施内容
フォレストジュニアクラブ (森の学校)	①7/11-12 ②9/12-13 ③12/12-13 ④3/6-7 計4回	小学3-6年生 各回36名	自然観察、生き物観察、ハイキング、キャンプ、野外料理、星空観察、シャワークライミング、ナイトハイクなど。

●自然をまるかじり！シリーズ

食を通じて自然の恵みを感じる。丸鶏を骨まで無駄なく調理するなど食育の機会とする。

事業名	実施期間	募集対象	実施内容
ダッジオープンで鶏の丸焼きをつくろう	①12/20 ②12/21 計2回	家族・一般 各回30名	ダッジオープンで丸鶏を丸焼きの食後、鶏ガラを使ったラーメンを作る。

●ファミリーキャンプ

自然の家の環境を活かし自然体験活動を通して家族との絆を深める。

キャンプ初心者でも気軽に楽しめる機会を提供する。

事業名	実施期間	募集対象	実施内容
ファミリーキャンプ	10/3-4	家族 15組50名	自然観察、ハイキング、野外料理、キャンプファイヤー、テント設営など。

●大阪府アドプトフォレスト

企業等事業者がスポンサーとなり、森林の保全・整備のために間伐や植樹、下草刈りなどの森づくり活動を推進する「アドプトフォレスト制度」を活用する地域連携事業。

森林に親しみ、里山と人との関わりを学ぶ機会を提供する。

事業名	実施期間	募集対象	実施内容
大阪府アドプトフォレスト	11/15	小学4年生～中学生を含む家族 50名	清水建設・大阪府・少年自然の家の3者連携契約事業。自然の家の周囲の森林、竹林を活用し、参加者が杉や竹の間伐やツリーイングなどの体験を実践しながら冒険の森づくりの活動を実施する。

●自然環境・野外活動指導者養成事業

指導者養成講座

青少年の体験活動を指導する人材育成の拠点施設として森林資源を活用した環境教育指導者の養成活動を推進する。

事業名	実施期間	募集対象	実施内容
指導者養成講座	1/23-24	青少年活動・自然体験活動に興味のある人。 10名程度	野外活動系の指導者養成講習会など専門機関連携を進め開催する。

●自然の家専属指導者の育成事業

施設利用団体への支援、主催事業への運営支援を担うボランティアスタッフを育成する。教育関係や学校現場を目指す大学生のボランティア体験の場としても有効。

事業名	実施期間	募集対象	実施内容
そぶらリーダー研修	6/27-28 10/17-18 2/20 計3回	大学生、専門学校生、社会人 10名程度	施設の理解、子どもの理解、安全管理などの座学研修。 野外活動スキルの実習。 事業の補助(OJT)。

●近隣市町村との連携支援事業

近隣市町村や子ども会等からの依頼により、体験活動の実施を支援する。

事業名	実施期間	募集対象	実施内容
近隣市町村との連携支援事業	4月から翌年3月までの期間 日帰り	市町村教育委員会、放課後子ども教室、公民館など 累計200名程度	・近隣市町村主催の青少年育成事業における自然体験活動運営への支援 ・教育コミュニティづくり推進事業「おおさか元気広場(出前講座)」の運営支援 ・公民館事業への運営支援など

●インターンシップ(就労体験)推進事業

職業意識の向上と職業選択に役立つ経験のため、近隣の大学からインターンシップ実習生の受入れ、少年自然の家の運営をスタッフとして体験し、職業人としての資質を高める。

事業名	実施期間	募集対象	実施内容
インターンシップ(就労体験)推進事業	4月から翌年3月までの期間 宿泊または日帰り	大学生、専門学校生 20名程度	大学等と連携しながら、受入れ利用団体への支援、自主事業に参画する。

「その他の自主事業」の実施

①大人向けの自然体験活動

●おとなのための自然体験活動

子どもの頃に経験したような豊かな自然と触れ合うことにより、年齢に問わず心癒される時間を過ごし、新たな発見や感動体験を味わう。

事業名	実施期間	募集対象	実施内容
おとなのえんそく	11/14	成人、一般 12名程度	ツリーイング、シャワークライミング、野外料理など

●シルバー世代を対象とした体験学習活動

ニーズに応じて、高齢者を対象にした自然、野外をテーマとした体験学習活動を行う。
また、同世代の交流の機会も担う。

事業名	実施期間	募集対象	実施内容
シルバー生涯学習 DAY	ニーズに応じて対応	府内のシルバー世代向け施設など	自然観察、野鳥など生物観察、自然素材を使ったクラフトなど。内容により専門家等の協力を得ながら実施する。

②自然の中で健康維持・家族や仲間とのコミュニケーション

●家族でたき火を楽しむ事業

親子の会話や、たき火を楽しめる環境が無くなりつつある現代。自然の中で焚き火を囲み、家族で団欒する時間と場を提供する。また、冬季閑散期の利用促進を目指す。

事業名	実施期間	募集対象	実施内容
たき火を楽しもう	①12/6 ②12/20 ③1/16 ④2/21 計4回	家族、一般 各回50名程度	各グループで自由に焚き火を楽しむ。薪割り体験。焼き芋など持込可。

●子育てを応援する事業

四季折々の自然を親子で親しむ体験や、子どもの自立を促す活動を行う。

事業名	実施期間	募集対象	実施内容
親子 de しぜんのようちえん	①5/24 ②7/5 ③11/29 ④1/29 計4回	園児（4-5歳）を含む家族 各回10組30名	子どもの原体験の促進と、親子のふれあう機会として、専門家と季節に応じた「おさんぽ」を楽しむ。
もりのこクラブ	①6/21 ②8/30 ③11/8 ④3/13-14 計4回	小学1-3年生 各回15名	子どもだけでクラフトや料理など野外体験活動を行う。最終回は初めてのお泊りを体験する。

●「バーベキューガーデン」を使用した事業

併設施設「バーベキューガーデン奥貝塚」を中心に府民が気軽に参加できる日帰り事業を企画し、利用率の促進を図る。

事業名	実施期間	募集対象	実施内容
流しそうめん体験	8月の土日(8/30を除く) 計9回	家族、一般 各回30名	家族で相談しながら流すコースを組立て、流しそうめんを楽しむ。

※ 上記の他、自主事業でも利用（ダッジオープンなど）

●お泊りパック

手軽にキャンプを体験できる機会として、食事や野外活動プログラムをパッケージ化し提供する。あわせて、閑散期の利用促進、繁忙期の業務効率化を目指す。（利用団体で満室になる場合は定員削減や実施しない場合もある）

事業名	実施期間	募集対象	実施内容
ゴールデンウィークお泊りパック	①5/2-3 ②5/3-4 ③5/4-5 ④5/5-6 計4回	家族、一般 ゴールデンウィーク 各7組20名程度	1泊3食付きのパッケージ。宿泊場所はテントと宿泊室を選択可（冬季は宿泊室のみ）。用具類は貸出で手ぶら参加。バーベキューやたき火、野外料理、クラフトなどの体験。展望台ハイク、クイズラリー、ディスクゴルフなど施設の自然を活かした野外でのゲーム。
秋のお泊りパック	①9/19-20 ②9/20-21 ③9/21-22 ④9/22-23 ⑤10/10-11 ⑥10/11-12 ⑦11/21-22 ⑧11/22-23 計8回	秋・冬 各12組30名	
冬のお泊りパック	①1/9-10 ②1/10-11 計2回		

③開かれた施設としての地域連携

●『自然の家オープンデー』

地域に根ざした施設運営を推進していくため、近隣関係機関・団体、企業などと連携し、人的、機関的ネットワークの構築を進めていく。

事業名	実施期間	募集対象	実施内容
第 41 回 自然の家オープンデー	2/23	広く一般に開放 自由参加 500 名程度	施設を無料開放（一部予約有料プログラムあり）。野外活動、ゲーム、クラフト、健康講座、利用団体による発表会など、各種企業団体と連携を図る。

・貝塚自然遊学館

自然の家を含む蕎原地域の自然環境についての指導助言を受け自然観察の利用などで連携を推進する。また、検体サンプルの収拾についても協力を行う。

検体協力、野外生物についての助言・相談など。

・貝塚いぶきヴィレッジ

利用者層のニーズに応じて相互に利用を PR。オープンデーでの野菜の販売などで連携する。

事業計画 （日程は変更になる場合あり）

4月	(なし)
5月	ゴールデンウィークお泊りバック① (2-3日) ゴールデンウィークお泊りバック② (3-4日) ゴールデンウィークお泊りバック③ (4-5日) ゴールデンウィークお泊りバック④ (5-6日) ガーデンイベント えほんでいただきます (16-17日) 親子deしぜんのようちえん① (24日) ガーデンイベント① ホテルのタベ① (30-31日)
6月	ガーデンイベント① ホテルのタベ② (6-7日) もりのこクラブ① (21日) そぶらリーダー研修① (27-28日)
7月	親子deしぜんのようちえん② (5日) フォレストジュニアクラブ① (11-12日)
8月	流しそうめん体験 (1, 2, 8, 9, 12, 16, 22, 23, 29日) 中高生チャレンジキャンプ (7-10日) こどもワイルドキャンプ (12-16日) もりのこクラブ② (30日)
9月	フォレストジュニアクラブ② (12-13日) 秋のお泊りバック① (19-20日) 秋のお泊りバック② (20-21日) 秋のお泊りバック③ (21-22日) 秋のお泊りバック④ (22-23日) 課題を抱える青少年への支援事業 (27日)
10月	ファミリーキャンプ (3-4日) 秋のお泊りバック⑤ (10-11日) 秋のお泊りバック⑥ (11-12日) そぶらリーダー研修② (17-18日) 乗馬体験と臨床動作法 (25日)
11月	自然をまるかじり (ダッジオープン) (3日) もりのこクラブ③ (8日) おとなのえんそく (14日) 大阪府アドプトフォレスト (15日) 秋のお泊りバック⑦ (21-22日) 秋のお泊りバック⑧ (22-23日) 親子deしぜんのようちえん③ (29日)
12月	たき火を楽しもう① (6日) フォレストジュニアクラブ③ (12-13日) たき火を楽しもう② (20日)
1月	冬のお泊りバック① (9-10日) 冬のお泊りバック② (10-11日) たき火を楽しもう③ (16日) 親子deしぜんのようちえん④ (17日) 指導者養成講座 (23-24日)
2月	そぶらリーダー研修③ (20日) たき火を楽しもう④ (21日) 第41回自然の家オープンデー (23日) えほんのひろば (23日) たき火を楽しもう⑤ (28日)
3月	フォレストジュニアクラブ④ (6-7日)

	もりのこクラブ④（13-14日）
不定期	近隣市町村との連携事業（おおさか元気広場出前講座など） インターンシップ（就労体験）推進事業 シルバー生涯学習DAY（ニーズに応じて）

ウ．業績目標

令和8年度 宿泊数 47,000人 日帰り数 43,000人 合計 90,000人

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
宿泊数	6,300	7,900	6,400	4,500	5,300	3,500
日帰り数	4,000	9,700	7,200	3,300	3,200	2,700
合計数	10,300	17,600	13,600	7,800	8,500	6,200
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
宿泊数	3,500	2,500	1,400	700	1,500	3,500
日帰り数	3,600	2,200	1,200	900	3,200	1,800
合計数	7,100	4,700	2,600	1,600	4,700	5,300

2．施設の維持補修

ア．修繕計画

施設の安全性、快適性および継続的な利用価値を確保するため、計画的に設備の管理・更新を実施する。所長・副所長の統括のもと、施設・管理部門及び食事部門で構成する「施設維持・管理チーム」により、月1回の全体会議を通じて点検結果、利用者意見、外部事業者からの報告等を共有し、修繕の優先順位を協議・決定する体制を継続する。

修繕の実施に当たっては、日常点検及び各種調査結果をもとに、緊急性・危険性・利用影響度を総合的に判断し、長期修繕計画に沿って段階的に対応する。

また、施設設備が適正に機能しない場合には、利用者の安全確保を最優先に応急対応を行うとともに、必要に応じて大阪府へ速やかに報告し、リスク分担に基づいて協議の上、対応する。

当年度の設備改善計画

○屋外施設の整備

- ・枯損木・危険木の確認および伐採を中心とした森林環境の整備
- ・登山道、ハイキングコースの安全点検と補修
- ・道標、オリエンテーション用看板等の更新・整備
- ・テント専用サイトの利便性向上に向けた環境整備
- ・ツリーイングポイントの安全確認および整備充実
- ・アスレチック広場の安全対策を含む整備
- ・污水配管の定期点検および不具合の早期把握

○屋内設備の整備

- ・光熱費削減及び省エネルギー推進の観点から、施設内照明の LED 化を継続的に推進
- ・既設空調設備の運用方法及び系統の見直し
- ・洗面、浴室等の水回りの整備並びに浴室備品の更新
- ・壁、棚、建具、錠前その他経年劣化箇所の修繕
- ・ピクトグラム等を活用したユニバーサルデザインの導入・更新

○屋内外共通設備の整備

- ・館内外表示の更新及び視認性向上
- ・屋内外給水管分岐バルブ（止水栓）の交換・追加
- ・屋内外の節水対策の推進
- ・屋内外トイレ排水管の詰まり対策及び洗浄部品の計画的交換

なお、屋内外の維持補修は、指定管理者の発意により実施する日常的・小規模な維持補修と、府との協議を要する案件とを整理しながら進める。募集要項上も、保守点検、法定点検、日常の維持補修及び小規模災害による維持補修は指定管理者側の負担範囲として整理されている。

イ．法定点検の実施計画

施設を安全かつ適正に運営するため、法令に基づく点検及び自主点検を計画的に実施する。

○敷地及び野外施設整備管理業務

・点検業務

各研修室、体育館、オリエンテーションホール、宿泊室、野外炊飯場、アスレチック遊具その他利用頻度の高い施設について、利用者が安全かつ快適に使用できるよう、月 1 回の自主点検を実施する。必要に応じて利用制限、応急処置、修繕手配を行う。

・保守業務

非常ベル、放送設備、避難器具、誘導灯、消火栓、消火器等の消防設備について、自主確認を継続するとともに、法定点検は関係法令及び水準書に基づき実施する。

空調機、送風機、換気扇、各種ポンプ類その他機械設備については、目視点検、稼働確認及び必要なメンテナンスを実施する。

○建築物、電気設備、機械設備等

法定点検及び保守点検業務委託は、水準書に基づき適正に実施する。なお、専門的知識又は資格を要する業務については、再委託先と十分に連携し、必要な報告を行いながら実施する。

添付資料①参照。

3. 利用促進のための投資計画

指定管理期間における利用促進投資は、総額 3,000 万円以上を令和 12 年度末までに完了する年次計画として進める。当年度はその初年度として、厨房へのスチームコンベクションオープン導入を実施する。当年度は、厨房にスチームコンベクションオープンを導入し、関連設備を含めて 400 万円（税込）を投資額として位置づけ、令和 8 年度の閑散期に設置する。本設備は、蒸気と熱風を組み合わせた調理により大量調理を効率的に行うことが可能であり、調理工程の効率化、仕上がり品質の安定化、食材ロスの低減およびエネルギー効率の向上が期待される。これにより、多様なメニュー提供や特別食への対応など食事サービスの充実を図るとともに、利用者満足度の向上および団体受入体制の強化につなげ、利用者促進を支える食事提供基盤の整備として施設利用の促進を図る。また、次年度以降には体育館空調整備を進める位置づけとする。体育館への高効率パッケージ型空調設備の導入について、2,600 万円（税込）を投資額とし、令和 8 年度に実施設計、令和 9 年度に施工、令和 10 年度からの稼働を予定している。

4. 情報発信（年間広報計画）

利用促進に向けた情報発信は、紙媒体とデジタル媒体を組み合わせる。具体的には、ホームページの充実、LINE や SNS の活用、民間 Web 媒体への掲載、リアルタイム空き情報の掲載、動画発信、多言語対応等を引き続き行い、サービス向上を進める。

○活用ツール

広報媒体

- ・ホームページについて、内容の見やすさ、予約導線、モデルプラン提示、利用案内の分かりやすさを重視した情報発信に努める。
- ・Facebook、Instagram、LINE 等 SNS を活用した継続的な情報発信を行う
- ・SEO 対策を意識し、検索流入の強化を図る
- ・自然の家 YouTube チャンネルにおいて、活動紹介、施設案内、野外炊飯や体験活動の動画等の充実を図る
- ・民間 Web サイト、イベント情報媒体、旅行・レジャー情報誌等への掲載依頼を継続する
- ・外国人利用や多様な利用者層を意識し、多言語案内や視認性の高い情報発信の整備を進める
- ・施設の空き状況や案内資料をデジタルで確認できる環境整備を推進する

○営業活動

- ・営業担当を中心に、学校利用の継続確保及び新規開拓を進める
- ・企業研修、一般団体、家族利用、近隣地域利用等への提案営業を強化する
- ・インバウンドを含む海外利用については、受入条件、食事対応、案内表示等の整備状況を踏まえ、関係機関や旅行事業者との連携を図りながら段階的に誘致を進める

上記に加え、ソフト面のサービス向上及び広報等により利用者数増加、特に閑散期利用者増を図ることが求められているため、広報は単なる周知にとどまらず、利用者層別の訴求と予約獲得に結びつく営業活動として位置づけ、戦略的に実施する。

5. 利用者サービスの向上(利用者満足度調査実施計画)

利用者の「利用目的の達成度」及び「満足度」を把握・分析し、施設運営の改善と顧客満足度の向上を図る。具体的には、施設、食事、職員対応、プログラム等に関するアンケートを実施し、月次で集計・分析を行い、PDCA サイクルにより改善を図るとともに、その結果と改善案の公表に努める。

実施方針

- ・団体利用者に対して、受付時又は利用時にアンケートを配布し、施設、食事、職員対応、活動支援、利用目的達成度等を把握する。
- ・食事に関しては、食堂における意見収集も併用し、食事サービス改善に活用する
- ・事業実施後は、事業ごとに振り返りアンケートを実施する
- ・ホームページ等を活用し、利用者の意見を随時受け付ける
- ・全体会議で情報を共有し、定量評価だけでなく具体的課題を把握する
- ・集計結果を月次又は四半期ごとに共有し、優先順位を設けて修繕、案内改善、プログラム改善、接遇改善等に反映する

6. その他

(1) 就職困難者層への雇用・就労支援

当該施設においては、知的障がい者 1 名が清掃業務に従事しており、指定管理者は同様の体制を維持し、継続就業希望がある場合にはその意向を尊重する。

(2) 府民、NPO 等との協働の取組み

大学生及び社会人ボランティアリーダーの受入れと育成を継続し、自然体験活動、主催事業、団体支援等におけるサポート体制を強化する。定期的な研修、OJT、振り返りを通じてスキルアップを図り、地域における青少年育成人材の裾野を広げる。

(3) SDGs を意識した環境問題への取組み

ごみ分別の徹底、持ち帰りの推奨、節水、省エネルギー、地産地消、環境学習プログラムの実施等を通じて、環境負荷低減と利用者の環境意識向上を進める。施設オリエンテーション等を通じて利用者へ協力を呼びかける。

2. 収支計画書

(1) 収入計画書

項 目	金 額
宿泊部門総収入 ①	100,500,000
食堂部門総収入 ②	110,700,000
管理運営委託費 ③	66,562,000
施設総収入 ④	277,762,000
宿泊部門総支出 ⑤	166,479,000
食堂部門総支出 ⑥	111,283,000
施設総支出 ⑦ (⑤+⑥)	277,762,000
損益 ⑧ (⑦-④)	0

(2) 収入内訳

項 目	合計	総収入 対比率	宿泊等部門	食堂等部門
利用料金収入 A	56,500,000	20%	56,500,000	0
食堂収入 B	109,490,000	39%	0	109,490,000
管理運営事業の活動系事業収入 C	34,100,000	12%	34,100,000	0
自主事業収入(活動系事業収入) D	9,240,000	3%	9,240,000	0
自主事業収入(バーベキュー場運営) E	1,870,000	1%	660,000	1,210,000
管理運営委託費 F	66,562,000	24%	66,562,000	0
総収入 G (A+B+C+D+E+F)	277,762,000	100%	167,062,000	110,700,000

(3) 支出内訳

事業費用	H	277,762,000	100%	166,479,000	111,283,000
	人件費	115,039,000	41%	82,829,000	32,210,000
	本部人件費	8,400,000	3%	4,200,000	4,200,000
	光熱水費	32,200,000	12%	22,200,000	10,000,000
	消耗品費	5,000,000	2%	3,000,000	2,000,000
	宣伝費	3,000,000	1%	3,000,000	0
	宿泊経費/原材料費	66,844,000	24%	10,000,000	56,844,000
	修繕費	7,000,000	3%	5,000,000	2,000,000
	手数料	200,000	0%	150,000	50,000
	委託料	13,500,000	5%	13,500,000	0
	公租公課費	4,899,000	2%	2,120,000	2,779,000
	賃借料	1,780,000	1%	1,580,000	200,000
	その他	6,267,000	2%	6,267,000	0
	本部事務費	4,000,000	1%	3,000,000	1,000,000
	自主事業に係る経費	9,633,000	3%	9,633,000	0

(4) 損益

総収入 (G)	277,762,000		167,062,000	110,700,000
総支出 (H)	277,762,000		166,479,000	111,283,000
損益 (G-H)	0		583,000	-583,000

(3) 別途投資として

食堂設備への投資 (キッチンパナソニック)	4,000,000
累計投資額	4,000,000

収入計画内訳

施設総収入見込

(1)管理宿泊部門 収入金額 100,500 千円

項 目	金 額	備 考
利用料金収入	小中学生宿泊 14,168	小中学生宿泊 23,129 人
	高校生以上宿泊 30,882	高校生以上宿泊 22,781 人
	日帰り利用 10,707	小中学生日帰り 28,645 人
		高校生以上日帰り 14,355 人
	テント 743	テント 1,090 人
	合 計 56,500	合計 90,000 人
事業収入他	主催 880	
	付帯事業収入 14,325	
	プログラム収入 19,106	
	売店収入 1,468	
	雑収入 960	
	自主事業収入 6,600	
	BBQプログラム収入 660	
	合 計 44,000	
総収入	100,500	

食堂等部門 収入金額 110,700 千円

項 目	金 額	備 考
食堂料金収入	朝 食 32,600	50,154 食
	昼 食 18,600	24,800 食
	夕 食 32,000	30,476 食
	その他(物販) 7,000	夜食・弁当・ジュース等
	食事代収入計 90,200	
	炊飯収入計 19,290	
	合 計 109,490	
事業収入	自主事業収入 1,210	
総収入	110,700	

令和8（2026）年度 維持管理業務

保守点検委託記録	実施期間	委託業者・検査機関	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
汚水処理施設維持管理業務	連2日以上巡回 測定業務(月2回)	辻義設備	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
汚泥抽出業務	年1回(3月)	辻義設備					○							○
浄化槽検査業務	年1回(10月)	環境水質指導協会/辻義							○					
汚水水质検査	年1回(6月)	貝塚市環境衛生課			○									
簡易専用水道水质検査(16項目)	年1回(6月)	三和管財			○									
消毒副生成物検査・浴槽水検査	年1回(6月)	三和管財			○									
簡易専用水道水质検査(11項目)	年1回(12月)	三和管財									○			
浴槽水水质検査	年1回(10月)	三和管財							○					
受水槽清掃業務	年1回(12月)	三和管財									○			
空気環境測定	年6回(4・6・8・10・12・2月)	三和管財	○	○	○		○	○			○	○	○	○
害虫・鼠防除業務	年4回(6・9・12・3月)	三和管財			○			○			○			○
特別清掃業務	年1回(2月)	三和管財											○	○
温水ヒーター(ボイラー)点検業務	月1回(自主)	三和管財	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
遊離残留塩素測定	毎日(自主)	三和管財	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
旅館業立入り検査	年1回(9月頃)	岸和田保健所		○										
簡易専用水道検査(書類検査)	年1回	大阪防協協会					○							
LPガス強制気化装置(ペーパーライザー)保守点検業務	年3回(6・11・3月)	昭栄ガス			○					○				○
ボイラー排ガス測定業務	年2回(9・3月)	ダイキンエアテクノ						○						○
自家用電気工作物保安点検業務	月次点検(月1回)	ダイキンエアテクノ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
自家用電気工作物精密点検	年次点検Ⅰ又はⅡ 年1回(1月)	ダイキンエアテクノ										○		
灯油地下タンク保守点検業務	年1回(12月)	株式会社タツノ											○	
公用車点検	年2回(5・11月)	大阪トヨタ泉生野店		○						○				
消防訓練	年2回(9・3月)	和泉防災						○						○
消防用設備点検等業務	年2回(9・3月)	和泉防災						○						○
防火設備定期点検	年2回(9・3月)	和泉防災						○						○
建築設備点検	年1回(3月)	和泉防災												○
特定建築物調査	3年1回(3月)次回はR7年	和泉防災												○
防火対象物点検	年1回(9月) 特別免除申請R10	和泉防災						○						
自主消防設備点検	月1回	スタッフ目視	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大型フロン機器定期点検	3年1回(3月)次回はR10年	ダイキンエアテクノ												
フロン使用機器簡易点検	年4回(4・7・10・1月)自主	スタッフ目視				○						○		
小荷物専用昇降機点検	年1回(10月)	菱電エレベーター施設							○					
設置遊具年次点検	年1回(6月)	ウッドウォームズ			○									
設置遊具自主目視点検	毎月	自主作業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
植栽・山林管理業務	随時	自主作業												
敷地内除草業務	随時	自主作業												
敷地内年次業務(雇用対策)	年1回(9月)	商工労働部就労支援事業						○						

3. 管理体制計画

1. 組織体制

添付資料②参照

2. 研修計画

・職員研修

本施設における従事者に対して、職員研修会を実施する。

全体研修

研修内容

- ①ホスピタリティー向上に関する研修
- ②人権啓発に関する研修等
- ③防災に関する研修
- ④AED研修など

研修時期 11～3月

個々の研修

研修内容

- ①新人対象・マナー・ホスピタリティー研修
 - ・青少年教育振興機構等主催の新人職員向け研修
 - ・大阪府主催人権研修 など
- ②食堂スタッフ対象
 - ・衛生管理や食育をテーマにした研修
- ③専任（指導系）スタッフ対象
 - ・ツリーイング講習
 - ・リスクマネジメントセミナー・ディレクター養成講座
 - ・キャンプインストラクター・ディレクター講習
 - ・青少年教育振興機構等主催の施設職員向け研修
- ④その他対象
 - ・社会教育主事講習の受講
 - ・個人情報保護に関する研修や勉強会
 - ・通信教育による自主研修
 - ・保守・管理業務に関する外部・自主研修 など

研修時期 閑散期を中心に随時

・個人情報の保護

「指定管理業務における個人情報保護規定」を適正に運用する。

- ・情報公開体制

共同事業体を構成する両団体の業務概要については、それぞれの団体ホームページで公開をするほか、求めに応じて、それぞれの団体本部事務局ならびに少年自然の家にて、誰でも閲覧することが出来る。

ホームページ <http://www.osaka-yha.or.jp>
<http://www.yso.or.jp>

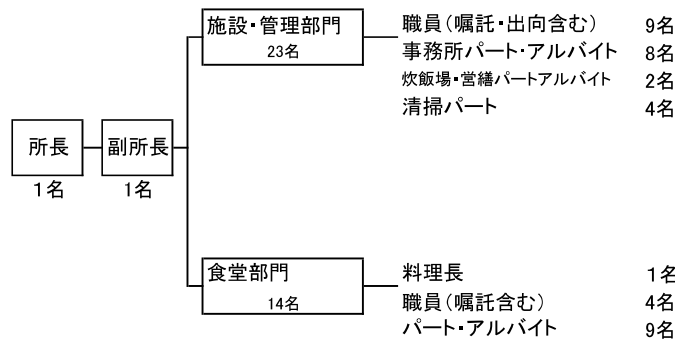
3. 危機管理マニュアル

添付資料③参照

添付資料②

令和8年度

1. 組織体制図



2. 従業員配置予定表

部門	区 分	人 数	比 率	備 考
総括部門	小計	2 名	(男 2 人、女 0 人)	
	職員(所長・副所長)	2 名	(男 2 人、女 0 人)	
食堂部門	小計	13 名	(男 7 人、女 6 人)	
	職員(嘱託含む)	5 名	(男 4 人、女 1 人)	
	パート・アルバイト	8 名	(男 3 人、女 5 人)	
施設・管理部門	小計	23 名	(男 13 人、女 10 人)	
	職員(嘱託含む)	11 名	(男 5 人、女 6 人)	
	パート・アルバイト	12 名	(男 8 人、女 4 人)	
計	小計	38 名	(男 22 人、女 16 人)	
	職員(嘱託含む)	18 名	(男 11 人、女 7 人)	
	パート・アルバイト	20 名	(男 11 人、女 9 人)	